平成20年度　施策評価シート

◆総合計画における位置付け等

平成20年7月23日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	12330
政策名（章）	第2章　生涯にわたる健康づくりを進めます	評価担当局	健康福祉局
基本施策名（節名）	第3節　市民医療の充実	施策所管課	地域医療課
施　策　名	災害時医療の充実	課長名	川上　宏

1　施策の目的・概要（目的はわかりやすく記入）

相模原市地域防災計画に基づき、災害の程度に即した医療救護活動の円滑な対応を図るため、救護所スタッフの確保、医薬品等の備蓄、後方医療機関の指定等を行うことにより、市民の安全を守る。

大規模地震等の災害に備えて、毎年４箇所の救護所で医療救護訓練を実施するとともに、救護所への備蓄薬品や資機材の整備、更新を行っている。

2　事業費・人員

（単位：千円）

年度	平成17年度（決算）	平成19年度（決算）	増減の主な理由
事業費	9,794	13,310	医薬品の更新・購入等による増
人件費	4,025		
市民一人あたりの事業費（単位：円）	15	19	
合計	13,819	13,310	

＊人件費は、職員一人あたり　H17：805万円、H19：805万円として算定。人口は、66.7万人（H18.4.1現在）、70.6万人（H20.4.1現在）とした。

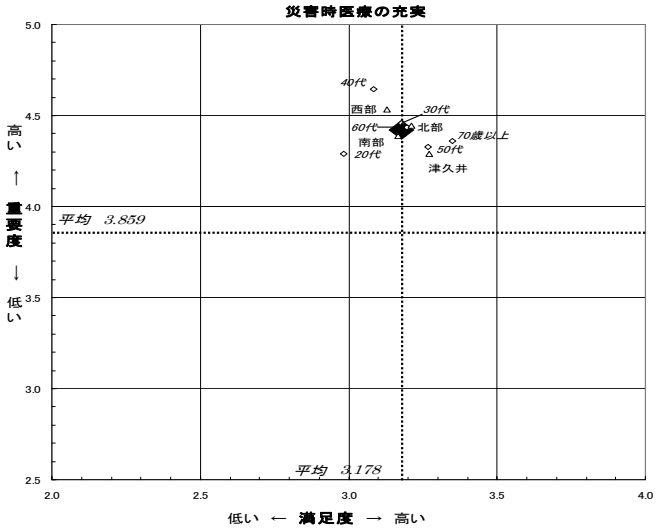
3　成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方（根拠）
指標1	拠点救護所及び救護所の医薬品（旧市内26箇所）の配置率	拠点救護所医薬品配置済箇所／拠点救護所医薬品配置予定箇所×100	拠点救護所及び救護所への医薬品の配置率を目標とする。既に配置済で医薬品の品質期限にあわせ計画的に更新する。
指標2	救護所資機材の配置率（簡易ベット・アルミ担架）	救護所資機材配置済箇所／救護所資機材配置予定箇所×100	救護所用資機材の配置率を目標とする。災害時医療救護マニュアルに基づき計画的に配置する。
指標3	救護所訓練実施率	訓練実施校数／訓練計画校数×100	救護所の救護訓練の実施率を目標とする。実施計画に基づき、平成17年度から計画的に訓練を実施する。
指標4	救護所看護ボランティア配置率	救護所看護ボランティア数／126人×100	平成18年度救護所に配置される看護ボランティア86人を各救護所5人の総人数126人として平成22年目標とする。
指標5	救護所の認知率	救護所を知っている人数／アンケート数×100	市民へのアンケート調査により、市内の救護所の認知状況を目標とする。

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標1（単位：%）	H17	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0	
事業費／人員										
指標2（単位：%）	H17	100.0	100.0	72.2	100.0		100.0		100.0	
事業費／人員										
指標3（単位：%）	H17	16.7	50.0	50.0	66.6		83.3		100.0	
事業費／人員										
指標4（単位：%）	H18	71.7	80.0	80.0	86.7		93.3		100.0	
事業費／人員										
指標5（単位：）										
事業費／人員										

4　市民満足度調査結果（平成20年度実施分）

〇この施策の満足度は3.176で121施策の中で47番目。
〇重要度は4.422で3番目である。
〇改善要望度は0.3991で5番目である。
〇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、20代で最も低くなっている。重要度は40代で最も高く、20代で最も低くなっている。
〇地区別にみると、満足度は津久井で最も高く、西部で最も低くなっている。重要度は西部で最も高く、津久井で最も低くなっている。



5　1次評価（2つの視点から評価を行う）

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回（H18）評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	(4) 2 1	前回の評価を少し甘く評価してしまったため、今回の評価が下がってしまった。
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 (2) 1	(4) 2 1	前回の評価では、満足度及び重要度ともに平均を上回っていたため、評価点を４とした。 今回の評価は重要度は平均を上回っているが、満足度が平均であったため、評価点が下がってしまった。
合計		4	評価結果に基づく区分（2項目の合計点数による） A（6点以上）　B（5点・4点）　C（3点以下）	1次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6　課題と解決策（現状または、評価結果から）

課題	旧相模原地域については、医薬品や資機材の計画的な整備を進めるとともに、今後は災害時医療救護マニュアルに基づき救護本部の体制整備を進める必要がある。 また、医療救護スタッフのうち看護ボランティアについて、災害時の医療救護活動等について研修を実施する必要がある。さらに津久井地域の医療救護体制について検討し、整備する必要がある。
解決策	看護ボランティアについては、知識の習得や災害時の医療救護活動の実体験談について、平成２０年度研修会を開催する予定である。また、津久井地域の医療救護体制については、災害時医療救護検討会において、市地域防災計画の見直しの動向を見ながら、平成２０年度から検討する予定である。

7　2次評価及び意見（1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入）

市民にわかりやすい指標設定を行う必要がある。（例：救護所の認知率など） ⇒指標5「救護所の認知率」を追加した。目標値については、次回までに設定することとした。	2次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8　3次評価及び意見（評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入）

市民生活に直結する施策であることから、市民の安心度を高めるために目標値の定め方を想定被害に対する配置率などへ変更すること。	3次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

災害時医療の充実

コード	12330

構成事務事業一覧

単位：千円

事務事業担当課	構成事務事業	H19決算見込（事業費）	H20予算（事業費）	H21見込額（事業費）	事業効果の高い指標番号	前回の優先順位	H17人員（人）	H17決算額（事業費）	H17合計（人件費含む）
地域医療課	災害時医療救護体制整備事業	13,310	12,756	12,756	1,2,3,4		0.50	9,794	13,819
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
		13,310	12,756	12,756			0.50	9,794	13,819